

としまPゼミ通信は、毎回の活動をまとめ、学びのふりかえりに役立てていただくことを目的に発行しています。第4回、5回(学習発表会)の活動を紹介します！



学習発表会準備・リハーサル ともに作ってあそぼう

まず、事務局からの学習発表会の簡単なスケジュールや案の説明のあと、北さんにバトンタッチ。もう次回は学習発表会です。色々決める前にまずはアイスブレイクです。

もはや脳トレーニング?! 笑

今回は集中力を高めるあそびからスタート。「わたし」「あなた」です。「わたし」で右手を自分の胸において「あなた」で輪のメンバーの1人の目を見て掌で指します。あなたと言われた人は同じように「わたし」「あなた」でまた誰かに返します。リズムに乗ってきたところで、「あなた」の部分を「自分の好きな果物名」に変えました。

それだけでも難しいのに、なんと「わたし」「あなた」と「わたし」「果物名」の2つの流れが1つの輪で同時進行。例えば「わたし」「梨」と来たら、「わたし」「ライチ」、「わたし」「すいか」……。北さんは「わたし」「あなた」の流れもスタートさせました。「わたし」「あなた」で自分に回ってきたら、「わたし」「あなた」で回します。これは、あわてない、2人が同時に話に来ても、聖徳太子のように?きちんと対応できる訓練として教員の研修時にも行うそうです。ちょっと気を抜くと、他の方の好きな果物名が混ざったり?! なかなかの集中力が必要でした。

他にも番号を順番に言いながら回すあそびをしました。「1」と言いながら左右どちらかの隣の人に手を向けて順番を回していきます。「6」までは手を向けて回すのですが、「7」を言う人は「シェー」のポーズのように片手を頭の上、反対の手はおなかのあたりにして大きい身振りで左右どちらかの隣を指します。次の人は1から再スタートです。「7」がいつ来るかわからないので観察力が必須! もし間違えると、罰ゲーム…輪の外側を1周して席に戻ります。これまた盛り上がりました。

また「見上げてごらん1、2、3」では、全員立ちあがって、下を向き誰かのつま先を見ます。「見上げてごらん1、2、3!」で顔をあげます。もし誰かと目が合ったら、ペア完成で上がり! これはとある地方自治体主催の婚活パーティでも行ったことがあるそうです。



子どもの権利のふりかえり

気持ちがほぐれた後、前回行った「大きなかぶ」のワークショップのふりかえりをしました。北さんから、「権利には3つのフィルターがあります。①やっていることにお互いが安心できること②他者にきちんと説明ができる③合意・同意がある。この3つのことがない限り、権利とは呼びません。コミュニケーションを意識すると、自分も相手の権利も尊重することにつながります。

皆さんの発表で、「そのままのあなたを認められる」「条件を付けられない、調教ではない、人にとって尊重される」「イメージができる」「言っていることが想像できる」「あなたが必要」など、どれもよい意見で、こういうことがうれしくて、人が動くのだと思います。また「違う可能性の新しい道」を示すのも学ぶという権利を保障するのにとても大事なことです。

大きなかぶのワークは、権利の真理を示してくれました。抜かれてみようと思ったかぶを演じたことは、権利を知るよい機会になりましたね。皆さんふむふむとうなずいていらっやいました。北さんのワークはやってみたあとでその奥深さを知ることになります。

さあ何をしよう？学習発表会

今回のメインは学習発表会の企画！皆さんの意見も取り入れた内容の提案が北さんからありました。ステージで発表のあとは、ブースで来場者を集めてPゼミメンバーの皆さんが学んできたコミュニケーションを使ったあそびをします。そしていよいよ本題の「**子どもの権利条約第31条カード**」を使ったワークショップにチャレンジ。あそびで心をほぐしてから、「第31条カード」を使って来場者とメンバーの皆さんが対話をし、来場者自身が大切だと思う子どもの権利を選び、ベスト5を調査していきます。子どもと大人が思う子どもの権利の違いも楽しみですね。



北さんも皆さんもアイデアがいっぱい。ステージやブースでどんなあそびがいいのか？実際にやってみてから具体化していきました。真剣な表情の合間には、やはり笑顔があふれる回でした。当日のグループや役割も決めて、少し緊張感も出てきましたが、あとは当日リハーサルでがんばりましょう！



「学習発表会」楽しい！をつくろう&ふりかえり

いよいよ学習発表会です！今年度は生涯学習フェスティバルと初コラボ！朝9時から1日活動になりました。お子さんやご家族も協力してくださり、きれいな飾りつけもできましたね。朝のリハーサルでは、実際のグループ(MC、見る、聞く、ラッキーセブンチーム)に分かれて練習しました。また全員で人間写真上映会のリハーサルも行いました。講師のきょんちゃんも来てくださり心強い味方になりました。

会場と一緒に楽しめたステージ発表

まずは午前中にステージ発表会。PゼミのMCがPゼミを紹介後、それぞれが自己紹介をしました。そしてグループに分かれて観客の皆さんとあそびをしました。

見るチームは4人並んで、観客に見えないように背後でペットボトルを手渡してまわっていきました。音楽が終わった時、誰がペットボトルを持っているか来場の方に当ててもらいました。Pゼミメンバーのお子さんもお手伝いでステージと一緒にあがって活躍されて大いに盛り上がりました。



聞くチームは、メンバーがそれぞれ違った食べ物を言い、当ててもらいました。「あと1人が何を言っているのが聞き取れない！」と悔しそうなお子さんも！

ラッキーセブンはステージのMCメンバーが出した数字と合わせて「7」になるように、「ラッキーセブン」で手と頭を働かせながら数字を自分の前に出しました。会場全体が1つになり、子どもたちのキラキラした顔がいっぱいになりました。



最後は**人間写真上映会**でした。リハどおり3種類の写真をメンバー全員で表現し、披露しました！さて何がテーマかわかりますか？



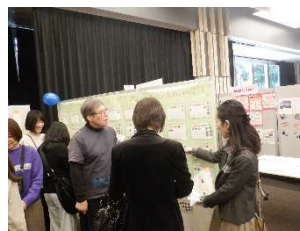
答え:オリンピック

練習の成果が出ていましたね！

ブースでの活動も大成功！

ステージ後は、グループごとにブースで活動。ブースにいらした方々とまずはあそんでコミュニケーションを取ってから、子どもの権利条約にふれて、それぞれが思う大事なものを5つ選んで、シールを貼ってもらいました。大人と子どもで色分けしたシールはいっぱいになりました。

ブースには区長や教育長、校長先生、PTA役員の方なども訪れて、あそびや子どもの権利の調査に参加してくださいました。Pゼミの皆さんもPゼミの活動の紹介や、学んだコミュニケーションで来場者との対話を楽しんでいらっしゃいました。午後は子どもの来場者が少なかったのは少し残念でした。



活動のふりかえり

学習発表会後は会議室に移り、ふりかえりを行いました。「子どもと対話を楽しむのがこのコミュニケーション講座のねらいでもありました。生涯学習フェスティバルの中では、私たちのブースは活気がありましたね。」と北さんからのお話の後、集計した「子どもの権利ベスト5！」を全員で確認しました。

集計結果

- ◇子ども 1位 友達 2位 工作 3位 本(漫画など) 4位 自然 5位 休む
- ◇大人 1位 好きなことができる 同率2位 夢中(熱中)になれる・居場所 同率4位 友達・安全に過ごす でした！

大人が思う子どもの大事なものと実際の子どもの意見では「友達」以外は違っているという面白い結果が出ました。

最後に「あなたにとっての響関とは？」と北さんから質問があり、個人で意見を出してからグループで共通イメージをあげていきました。

- ・「個」同士の関わり。自分も相手も認める。その関わりの方向性は多様である。
- ・相手を受け入れて、違いを認めて返すこと。
- ・おもしろがる。まずはその人に向けての一步を踏み出す。

「響関(きょうかん)するとは、シンプルに言うとその場に一緒に居て、面白がりながら、かかわること(状況内表現者)です。」北さんのお話は続きます。「響関は、今、目の前で起きていることのどこに興味を持ち、何を面白がり、心響き動かされたのか、それらが全て認められる懐の深さがあります。それが正解かどうかというより、あなたの心がどう感じたのかが大事なのです。

皆さんがワークを受けながら、感じ学んだことは、決して答えを固定化しないこと・自らが面白がってそこに混ぜてみることに交わり、自らの内から湧き上がる声に耳を傾けそれを表現したことで広がっていくこと！そんな世界だったのではないのでしょうか。

大きなかぶごっこでも今を否定されずに、その先を考えると、ワクワクしたり、面白いと思えることで、互いに心が動いていくということを学んだのではないのでしょうか。豊かなコミュニケーションには響関することが大事だと改めて思うのです。

また同時に、子どもと向き合うには大人の心と体の頭の体力が必要になります。この講座はそんな体力のトレーニングになったと思っています。

最後に、豊かなコミュニケーションになるためにもう1つ大事な視点があります。それは子どもの発達の道筋です。生まれてから学童期になるための発達には順番があり、その順番には飛び級がなく、1つ1つその階段を上っていくのです。もちろん時にはいたり来たりしながら。

まずは安心できること。

自らの発見に共感してもらえること。

自分で考えて自分で決めて判断することが尊重されること。

最後まで話を聞いてもらえること。

これらの体験の上に、誰かのために役立とうとか、誰かと一緒に～をしていこうという風になるのです。

コミュニケーションも発達順番のように、他者とのかかわりは安心感がスタートラインになります。そして飛び級はないので、今のかかわりの中でどこが不十分なのかを考えながら進むことになるのです。

皆さんの日常の中で他者とのかかわりがより豊かに、楽しくなっていくことを心から願っています。」と北さんからまとめがありました。



○○○みなさんからの感想を一部ご紹介します○○○

*原文ママ

学習発表会での感想

- ステージでは緊張しましたが、小2の子どもやその友達も楽しんでくれてよかった。
- 子どもの権利のシール貼りで、何をどうして選んだのか対話したかった。
- この講座で学んだことを自分の子どもの通う小学校に紹介したい。キャラバンのように定期的に小・中学校で開催できたら面白い。
- 全力投球できたので気持ちでは満点。発表会前にもう1回りハの講座があればよかった。
- 子どもと一緒に参加できてよい経験になった。

講座に参加して、周りとのコミュニケーションの取り方で変わったことがあれば教えてください

- 何でも面白がってみるといふ姿勢が身についた。
- どんな人とも楽しいコミュニケーションを心がけていきたい。
- 家でも教えてもらったあそびを子どもと楽しんだ。ルールを変えてみたり、新しいあそびを一緒に考える。そんな関わりの中で、心を響かせる時間を過ごせるようになった。

- 積極的、前向きなコミュニケーションを心がけるようになった。
- 自分の先入観を取り払うきっかけとなった。家族だけでなく職場でも周りとうまく話せるようになった。

北さんへメッセージ

- 北さんの講座は全員参加型で人見知りのわたしも楽しかったです。
- 毎回、何かしらの気づきと知る喜びがありました。肩書のない本来の自分を取り戻せました。
- 遊びの大切さ、子どもが子ども時代を精一杯生きていること、今大切なことをもう一度考えるきっかけになりました。
- 大人になってあそんだことは尊い経験でした。あそびにルール、順位は関係ないと気づかせてくれました。子育てのヒントをたくさんもらいました。
- 楽しかったです！ありがとうございました。



今年度のとしまPゼミの活動は終了いたします。5か月間ありがとうございました。
事務局として至らないところもありましたが、Pゼミの皆さんのおかげで素晴らしい講座になったと思います。
また機会がありましたら、皆さんと一緒に活動できることを楽しみにしております。